

## 2026年3月期の事業概況

2026年6月30日  
サンヨー食品株式会社  
広報宣伝部

サンヨー食品株式会社（本社：東京、社長：井田純一郎）の2026年3月期（自2025年4月1日～至2026年3月31日）における事業概況は、以下の通りとなりました。

2026年3月期の連結業績（2025年4月1日～2026年3月31日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		経常利益	
	百万円	%	百万円	%
2026年3月期	185,609	△ 4.3	62,908	△ 1.6
2025年3月期	194,073	7.6	63,968	26.2

### 【事業の経過及びその成果】

当事業年度におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善に伴い、緩やかな回復基調で推移しました。

しかしながら、中東地域における地政学的リスクが顕在化し、その影響によりエネルギー価格や原材料価格が高騰するなど、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが中核事業を展開する即席麺業界におきましては、物価上昇が継続したため、消費者の生活防衛意識は依然として強く、即席麺業界を取り巻く事業環境は、引き続き厳しい状況にあります。

こうした環境の下、当連結会計年度の当社グループの売上高は1,856億9百万円（前期比4.3%減）、経常利益は629億8百万円（前期比1.6%減）となりました。

## 【事業の状況】

「サッポロー番」は、CM「ずっと好きだった」シリーズを投入、各種プロモーションやキャラクターコンテンツとのタイアップ企画を実施しました。また成長する辛口フレーバー市場では「極辛」を新たに発売することで、ロングセラーの存在感訴求と新規の取り組みの両方を実現しました。

カップ麺は「カップスター」で各種タイアップ企画やエリア戦略などを展開し、秋に新発売した「ほたて塩味」が大ヒットしました。袋麺のプロモーションに連動し好調を維持する「サッポロー番どんぶり」シリーズとともに、2大主力ブランドが好調で売上に貢献しました。

これらの結果、当期の売上高は497億24百万円（前期比1.3%増）となりました。

連結対象会社であるエスコック株式会社、Sanyo Foods Corporation of America 及び Acecook Vietnam Joint Stock Company 及びその他事業の合計売上高は1,411億64百万円（前期比6.0%減）となりました。

中国における持分法適用会社である康師傅控股有限公司は、売上が中国元ベースで前期比2.0%の減少となりましたが、期末為替レートが前期比円安中国元高となったため、円ベースで前期比1.2%増加の1兆7,680億円となりました。

## 【今後の課題と展望】

国内食品市場は、現時点では増加傾向にあるものの、将来的には少子高齢化・人口減少により縮小が予想されます。また、販売チャネルの再編加速に加えて、投入コスト全般が上昇を続けており、事業収益は圧迫されています。さらに物価上昇に伴う節約志向の強まりなど、先行き不透明な経営環境が続く事が予想されます。

このような状況の下、当社では、一部製品の価格改定を実施して、収益構造の安定化を図ります。同時に製品の安定供給を念頭に、食の安全・安心に向けての体制強化、品質の向上、消費者視点に立った商品価値の提案、社内のデジタル化と徹底したコスト意識を維持し、持続可能な事業活動を堅実に推進してまいります。

海外食料品事業は、中国、東南アジア、北米、サブサハラアフリカにおいて引き続き重点商品のシェア向上、利益確保を軸に、新製品開発、マーケティング及び販売活動の強化に注力して取り組んでまいります。